

令和7年度第1回船橋市まち・ひと・しごと創生懇話会 会議録

- 日時 令和7年12月16日（火） 10:00～11:30
- 場所 船橋市役所 9階 第1会議室
- 出席者
（委員）

篠田 好造	船橋商工会議所 会頭
鈴木 幸雄	船橋市 企画財政部長
櫻井 慎一	日本大学 理工学部 海洋建築工学科 特任教授
阿部 克信	株式会社 千葉銀行 常務執行役員・船橋支店長
森 敬	一般社団法人 船橋労働基準協会 専務理事・事務局長
小林 隆	株式会社 時事通信社 千葉支局長
早川 淑男	船橋市自治会連合協議会 会長

（事務局） 政策企画課 松本課長、吉村課長補佐、松本プロ・企業スポーツ連携推進係長、宇都計画推進係長 他
- 会議の公開・非公開の区分 公開
- 傍聴人 0名
- 議題
 - （1）デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）事業の効果検証について
 - （2）第2期船橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について
- 配布資料
 - ・次第
 - ・席次表
 - ・資料1 船橋市まち・ひと・しごと創生懇話会委員名簿
 - ・資料2-1 デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）事業の効果検証
 - ・資料2-2 令和6年度実施事業の説明
 - ・資料3-1 第2期船橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗状況総括表
 - ・資料3-2 数値目標・KPI 一覧表

●議事内容

○ 政策企画課長補佐

議事に入ります前に、資料の確認と懇話会の進行に係る事項をご説明いたします。

はじめに、本日の資料の確認をお願いいたします。

お手元に、配布資料として、

・次第

・席次表

・資料1 船橋市まち・ひと・しごと創生懇話会委員名簿

・資料2-1 デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）事業の効果検証

・資料2-2 令和6年度実施事業の説明

・資料3-1 第2期船橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗状況総括表

・資料3-2 数値目標・KPI一覧表

以上、資料一式ありますでしょうか。ご確認をお願いいたします。

また参考資料といたしまして、第2期船橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略の冊子を置かせていただいております。必要に応じて中身を確認いただければと思います。

マイク的使用方法ですが、マイクのスイッチを押していただきますと、赤いランプが付きマイクがオンになります。ご自分の発言が終わりましたら、再度スイッチを押してマイクをオフにさせていただきますようお願いいたします。

また、お手数ではございますが、発言の都度、お名前を仰っていただきますよう併せてお願いいたします。

本日の懇話会は最大1時間半程度を予定しております。

本懇話会は原則公開としておりますが、傍聴につきましては、本日は傍聴の希望者はありませんでしたので、ご報告いたします。それではこれより議事に入ります。

議事の進行につきましては、船橋市まち・ひと・しごと創生懇話会設置要綱第4条第1項に基づき、企画財政部長をお願いいたします。

○ 鈴木委員

それでは、これより令和7年度第1回船橋市まち・ひと・しごと創生懇話会を開始させていただきます。

まず皆様のご紹介を事務局からさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

○ 政策企画課長

それでは、本懇話会委員の皆様の御紹介をさせていただきます。

資料1 委員名簿を御覧ください。

お名前をお呼びしますので、大変恐縮ではございますが、その場で御起立くださいますようお願い申し上げます。

船橋商工会議所 会頭 篠田 好造 様

日本大学理工学部 海洋建築工学科 特任教授 櫻井 慎一 様

株式会社 千葉銀行 船橋支店 理事・船橋支店長 阿部 克信 様

一般社団法人 船橋労働基準協会 専務理事・事務局長 森 敬 様

株式会社 時事通信社 千葉支局長 小林 隆 様

船橋市自治会連合協議会 会長 早川 淑男 様

企画財政部長 鈴木を含めまして、委員の皆様、よろしくお願いいたします。

続いて、事務局及び市担当課についても紹介いたします。

まず、当懇話会の事務局を務めます政策企画課から

課長の松本でございます。

課長補佐の吉村でございます。

計画推進係長の宇都でございます。

プロ・企業スポーツ連携推進係長の松本でございます。

委員の皆様の御紹介及び事務局・市担当課の紹介は以上です。

○ 鈴木委員

それでは、議題に移らせていただきます。本日は次第にありますように議題が2つございます。

1つ目が国の交付金「デジタル田園都市国家構想交付金」の活用 effects を検証するもので、2つ目は、第2期船橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況となっております。それでは、事務局より、はじめに「デジタル田園都市国家構想交付金」制度の概要を説明させていただいた後、取り組んできた事業の内容を報告させていただきます。

○ 政策企画課長

はじめに交付金の制度の概要の説明させていただきますが、資料はございませんので口頭で説明させていただきます。

デジタル田園都市国家構想交付金事業は、自治体の総合戦略に位置付けられ、地方創生に資するものとして、自主的・主体的で先導的な事業の実施に要する費用に対し、国から交付されるものでございます。

この交付金の申請にあたっては、事業の進捗を図るため重要業績評価指標、いわゆる KPI を設定し、外部有識者を含む検証機関にて検証することを国から求められており、本市におきましては、総合戦略に基づく施策の推進及び効果の検証に関することへの意見聴取は懇話会にて行うこととさせていただいております。

つきましては、懇話会の委員の皆様におかれましては、この後説明させていただきます事業につきまして、地方創生に有効であったか否かを、本日、ご意見、ご評価いただきたいと思います。

交付金制度の概要の説明は以上となります。

続きまして、事業の概要について、ご説明させていただきます。資料2-1をご覧ください。

令和6年度、本市が実施する、トップスポーツチームと連携し、地域イベントやシティプロモーション等の取り組みを実施する「大規模スポーツイベントを契機としたトップスポーツチーム連携による交流・関係人口創出事業」が国の認定を受けまして、当交付金の交付を受けたところでございます。

当交付金は、先程交付金制度の概要説明でご説明させていただきましたとおり、事業結果とあらかじめ設けた重要業績評価指標（KPI）の達成度等を報告することを前提に国より交付を受けておりますことから、本日報告の機会をいただきました。

はじめに資料2-1の概要欄をご覧ください。本事業は、船橋市における大規模スポーツイベント「りそなグループ B リーグオールスター 2025」の開催を起爆剤とし、多様なステークホルダーに本市をホームタウンとして活動するトップスポーツチームを地域資源として捉えてもらうとともに、新たに「船橋市プロスポーツ等連携推進委員会」を発足し、トップスポーツチームと連携した地域イベントやシティプロモーション等の取り組みを実施することで、新しい交流・関係人口を創出し、地域活性化・経済活性化に繋げていくことを目的とした事業となります。

下の段に移りまして、本事業における重要業績評価指標（KPI）といたしましては、1つ目「地域の人口・世帯数」、2つ目「市外から流入した滞在人口」、3つ目「船橋市プロスポーツ等連携推進委員会が実施する連携事業数」、こちらの3つを設定しております。

1年目の令和6年度の計画値は、事業開始時点と比較しまして、地域の人口・世帯数は1,800人の増加、市外から流入した滞在人口は1,000人の増加、船橋市プロスポーツ等連携推進委員会が実施する連携事業数は8事業の実施を目標に掲げており、実績としてはそ

れぞれ2,174人の増加、8,573人の増加、9事業の実施といずれも目標を上回ることができました。

次に各事業の実績、効果のご説明となります。本事業は、大きく2つの事業で構成されております。1つ目は、B.LEAGUE ALL-STAR GAME 2025 IN FUNABASHI 実行委員会の実施した事業で、「りそなグループBリーグオールスター2025」の開催にあわせて、スポーツ振興、地域活性化又は大会の機運醸成を図ることを目的に設立した委員会での実施した事業になります。2つ目は、船橋市プロスポーツ等連携推進委員会が実施した事業で、実施交流・関係人口の創出、地域活性化・経済活性化を推進するとともに、チーム応援の機運醸成を図ることを目的に設立した委員会での実施した事業になります。

まず、上段のB.LEAGUE ALL-STAR GAME 2025 IN FUNABASHI 実行委員会の実施した事業の説明となりますが、オールスターの大会当日2日間、試合会場周辺で開催した場外イベント事業、大会当日までの10日間で市内回遊を図るデジタルスタンプラリーなどのオールスターウィーク事業、大会までの約1か月間、大会機運醸成を図るシティドレッシング事業を行いました。試合会場であるLaLa arena 周辺での場外イベントには、2日間で約40,000人が来場し、イベント関係の「ホームページ閲覧数」は、約68,000件、「公式X閲覧数」は約347,000件となり、地域の活性化や地域外からの認知・イメージ向上につながったと考えております。また、総務省の「経済波及効果簡易計算ツール」を用いて、経済波及効果を計算した結果、「経済波及効果」の合計は、事業費約3,300万円に対し、約2.5倍の約8,400万円となりまして、地域経済においても一定の効果があったと考えております。

次に、下段の船橋市プロスポーツ等連携推進委員会の実施した事業では、大型商業施設でのパブリックビューイングやまちなかの装飾により市民をはじめ、多くの方がチームを認知し、身近に感じることができ、その結果、チームへの応援機運や愛着度が高まったと考えております。また、委員会に関する活動の「ホームページ閲覧数」は、約5,300件、「公式X閲覧数」は約570,000件となり、地域の活性化や地域外からの認知・イメージ向上につながったと考えております。それぞれの事業の詳細については、添付させていただいております資料2-2「令和6年度実施事業の説明」と記載された資料で紹介させていただいておりますが、申し訳ありませんが時間の都合により説明を割愛させていただきます。

次に、今後の課題でございます。KPIの指標の1つである「市外から流入した滞在人口」について、令和6年度におきましては、同年度に新たに開業したLaLa arena TOKYO-BAYへの来場者数の影響が大きいと考えられるため、令和7年以降も継続して増加していくよう、引き続きチームと連携し、より効果的な事業実施を検討してまいります。

また、委員会による取り組みについて、より詳細に効果分析を行うとともに、さらに効果的な事業を創出するため、イベントの参加者等にアンケート調査を実施してまいります。

最後に、本事業の評価になりますが、いずれのKPIも実績が計画値を上回り、本事業の実施により新しい交流・関係人口の創出、地域活性化・経済活性化に寄与できたと評価させていただきます。

報告は以上でございます。

○ 鈴木委員

ありがとうございました。千葉ジェッツとクボタスピアーズという大きな地域資源がありますので、それを活用して地方創生、地域活性化という部分の取り組みに国の補助金を活用したものになります。今の説明につきまして、何かご意見、ご質問がございましたらお願いいたします。

○ 早川委員

先般私どもの千葉県自治会連合会の会合がありまして、市川市から船橋市はスポーツが盛んでいいねと大変羨ましがられました。地域活性化に大変効果あると思いますので引き続き応援していきたいと思います。

○ 篠田委員

千葉ジェッツは以前、船橋アリーナがホームでしたが、今はLaLa arenaに移って、様々なイベントを通じて沢山の人が訪れています。船橋駅前では千葉ジェッツやクボタスピアーズの装飾もありますが、それをなんとか船橋市内全域に渡って、市内の様々な場所でこのような催しを考えるべきではないか、また、パブリックビューイングは大型商業施設で行うことが多いので、市内の他の地域でも盛り上げていけないかなと思います。せっかくの機会が到来しているので、船橋市全体に及ぼすような施策が必要なのではないかなと思います。

○ 森委員

1つ目は、「市外から流入した滞在人口」というのは、イベントのみの人数をカウントしているのでしょうか。それとも試合で来られた方々もカウントしているのでしょうか。

2つ目は、クボタスピアーズさんのホームグラウンドは江戸川区だと思うのですが、私どもの会員でもありますクボタさんが、船橋市にホームグラウンドはできないのか、せっかく「クボタスピアーズ船橋・東京ベイ」という名前なので、ホームグラウンドが船橋にあれば、私も機会があれば見に行きたいなと思います。できれば船橋市内に陸上競技場やラグビー競技場、サッカー場があれば、「市外から流入した滞在人口」が増えるのではないかなと思います。

○ 政策企画課長

ただいま森委員からお話がありました「市外から流入した滞在人口」に関しましては、試合やイベントのある日だけではなく、一定の曜日の一定の時間に船橋市内に一定時間滞在した人を携帯電話のGPSのデータで人数をカウントできるようになっておりまして、その人数になっております。

もう一点、クボタスピアーズの試合が市内で見られるような場所ですが、ホームグラウンドという点ではなかなか難しいと思っております。実際にクボタの工場の方に練習する場所がございますが、通常時は一般の方は入れないような場所になっておりますので、なかなか見ていただける機会はないのかもしれませんが。直接の観戦は難しいのですが、パブリックビューイングを実施することにより、試合会場に行けない方であっても身近に感じていただけるように思っております。ちょうど先日、12月13日土曜日に今シーズン開幕戦をららぽーとの旧ビビットのノースゲートでパブリックビューイングを実施いたしました。実際に試合を観戦していただいた方は100名程で多くの方にいらっしやっていただきました。

また、ホームゲームを12月20日にフクダ電子アリーナで開催されます。そこには、地域貢献という形で、クボタスピアーズの選手を派遣して小学校でタグラグビー教室の指導をおこなっており、そのラグビー教室を開催した学校の生徒さんをホームゲームに招待のご案内をさせていただいております。当選された方は、選手と一緒にバスに乗って船橋からフクダ電子アリーナまで試合観戦バスツアーができます。当選されなかった方には、無料の招待券をお配りして試合観戦をしていただくような機会を委員会の事業として実施しています。これからも、身近に感じていただけるような方法を色々と考えていきたいと思っております。

先ほど篠田委員から、船橋駅周辺だけではなく、市内全域に効果を波及できないかというお話がございました。その点に関しまして、委員会の中でできるだけ市内に色々な効果が波及できる事業を考えております。令和7年度におきましては、7月に千葉ジェッツと

クボタスピアーズの両チームに参加していただいたトップスポーツチームフェスタをアンデルセン公園で開催いたしました。北部地域にも足を運んでいただくような施策を1つ考えさせていただきました。来年1月からは市内の商店さんにご参加いただいて1,000円以上のお買い物を2店舗以上でしていただいたレシートをつけて応募していただくと、試合観戦チケットが当選するというキャンペーンを考えております。このキャンペーンは市内全域の商店さんに参加していただきますので、様々な効果を市内全域へ波及できるのではないかと考えております。

○ 小林委員

私もスポーツと地域の結びつきというのは非常に大事なと思います。先日、サッカーでジェフ千葉がJ1復帰ということで17年ぶりらしいのですが、私も取材をしていますと、千葉県の県民性は非常に地域を愛する方が多いのかなという気がしています。ジェフ千葉が復帰を決めた際、非常に盛り上がっていました。

また、先日、個人的にバスケットボール観戦に行きましたが、特にLaLa arenaは非常に大成功しており、例えば日本ハムのエスコンフィールドと肩を並べるぐらいの施設だということで、やはりこれを生かさない手はないなというご意見を聞いております。そういう意味で非常に今波に乗っているのかなと思いますので、県民をまず焚きつけ、船橋市民があるいは県民一丸となって、両チームが優勝するような施策に取り組んでいただけたらと感じております。

○ 阿部委員

この事業については非常に良い事業だなと率直な感想です。評価についても、十分素晴らしいものだと、考えております。私は市川市に住んでおりまして、市川市長と話をした時にやはり船橋市さんは「スポーツ健康都市宣言」を宣言し、市立船橋高等学校が強くなり、スポーツと市が非常に密接に関わっていて、千葉ジェッツもそうですが素晴らしいものがどんどんできていく。浦安市はディズニーランドがあつて、市川市って何だろうとよくそういうことをおっしゃっていました。市とスポーツの密接な関係がずっと続いているということが、今人口が増加している要因にもなっているのではないかと思います。地方創生に資する良い事業だなと感じました。

○ 鈴木委員

今回は令和6年度の取り組みについて報告をいたしました。来年もこの事業につきまして同じように評価をしていただくということになります。今年よりも良い結果になりますように取り組んでまいります。ここで委員の皆様、この事業の効果検証の判断をしていただく必要がございます。先ほど政策企画課より『地方創生に効果があった』と説明がありましたが、そのように判定させていただいてよろしいでしょうか。

○ 各委員

異議なし。

○ 鈴木委員

ありがとうございます。今回の事業は『地方創生に効果があった』とさせていただきます。

それでは議題(2)第2期船橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について、事務局よりご説明いたします。

○ 政策企画課長

第2期総合戦略の進捗状況につきましてご説明いたします。資料3-1「第2期船橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗状況総括表」をご覧ください。

はじめに総指標数でございますが、総合戦略全体で基本目標における数値目標と重要業績評価指標KPIあわせて23の指標がございます。評価は、「○」「×」「－」の3つになります。「○」は基準値から実績値への変化が「目指す方向」と一致している場合、「×」は

基準値から実績値への変化が「目指す方向」となっていない場合の評価です。具体的な目標値を設定している指標については、その目標値を達成しているかどうかで「○か×」を評価しています。「－」は、評価対象外としております。新型コロナウイルス感染症等の影響により、実績値が著しく低いなど、適切な評価ができない場合の評価です。

本懇話会にあわせてとりまとめましたところ、全指標数23項目のうち、評価対象外の4つを除き、「○」が13項目で68.4%、「×」だったものが6項目で31.6%という状況となっております。続いて、資料3－2のA3横の一覧表をご覧ください。

各基本目標に設定している数値目標および各施策の進捗を図るKPIの進捗状況について、ご報告しますが、時間の関係上、23の指標のうちお伝えしたいものをピックアップしてご説明します。初めに基本目標1、「働きたい「しごと」があるまち・船橋【しごとの創生】」でございます。この目標では、地域産業の持続的発展、平日の市内滞在人口を増やすことで消費活動が増加することによる地域経済の活性化を施策の基本的方向としています。まず、数値目標の『全産業の売上（収入）金額』と、施策1「商業環境の整備」のKPI『小売業の年間商品販売額』、施策2「企業活動の活性化支援」のKPI『全産業事業所数』、施策3「雇用確保・就労支援」のKPI『全産業従業者数』につきましては、経済センサスに関する指標を設定していますが、今年度は調査に伴う実績値が出ない年度であり、こちらにお示ししている実績値及びその評価も昨年度と同様のものとなっております。併せて、上3つの指標については、令和3年度の実績値であるため新型コロナウイルス感染症等の影響を受けていると考えられることから、評価対象外「－」としております。

なお、経済センサスは概ね5年に1度実施されており、次の実績値は令和8年度に調査されます。毎年度実績値を更新することができないことから、現行の第3期総合戦略では、経済センサスの指標ではなく、毎年度、実績値が出る例えば創業者数などを指標として設定しているところ です。

その他の施策の状況ですが、施策5の「農水産業の流通・販売の強化」のKPI『農業産出額』は昨年度に引き続き数値が改善され評価も「○」となっております。要因としては、ハウスの新設やリフォーム、機械の導入などに対する補助事業の効果によるものと考えられます。一方で、『漁獲量』については、青潮等の影響により減少したことから評価は「×」となっております。

続きまして2ページ目をご覧ください。

基本目標2「行ってみたい魅力があふれるまち・船橋【魅力の創生】」でございます。

この目標では、本市の魅力的な地域資源をさらに活かすため、関係機関と連携しながら、本市の魅力の発信を推進すること、将来の人口減少時代を見据えて、今後も活気あるまちであり続けるために、定住の促進や観光等で訪れる交流人口の増加に取り組むことを基本的方向としています。

数値目標の「転入数」は増加しておりの評価は「○」となっております。昨年度と比べ国外からの転入者が大きく増加しています。

また各施策の状況をみると、施策1「魅力発信の充実」のKPI「観光入込客数」の評価は「○」となっております。令和5年度から市民まつりが再開されたことに伴い大幅に増加しています。

続きまして、基本目標3「結婚・出産・子育ての希望がかなうまち・船橋【ひとの創生】」でございます。この目標では、子どもの権利が守られ、すべての子供が健やかで心豊かに育ち、保護者が喜びや生きがいを感じながら、安心して子供を産み育てられることができる環境の整備とともに、社会全体で子供や子育て家庭を支えるまちを目指すことを基本的方向としています。

数値目標は「合計特殊出生率」となっていますが、基準値から年々数値は下がっており、評価は「×」となりました。

厚生労働省の令和6年(2024)人口動態統計月報年計(概数)によると令和6年の全国のお合計特殊出生率は1.15であり、本市と同様年々数値は下がっています。

基本目標3の各施策の状況ですが、施策1「教育・保育の充実」のKPI『保育所待機児童数』は基準値から増加し「×」となりました。小規模保育事業所を5施設整備したことで、令和6年度に定員枠を84名拡大しましたが、物価上昇やコロナ収束による共働き世帯の増加により、保育需要が想定以上に増加したことなどから、待機児童数が昨年度と比較して10名増加しました。

施策2「子供の健全な育成」のKPI『放課後ルームの待機児童数』は基準値より数値が減少していることから評価は「○」となっています。待機児童数は減少したものの依然として多い状況であり、保育園利用率が増加傾向であることから、共働き世代の増加に伴い利用申請・利用者ともに増加傾向です。

続いて3ページ目をご覧ください。基本目標4「いつまでも住み続けたい安心・安全なまち・船橋【まちの創生】」でございます。

この目標でこの目標では、地域包括ケアシステム構築の更なる推進や、自然災害などのリスクに対応するため、市民と行政が一体となって災害や犯罪などの被害を防止・軽減するまちづくりの推進、いつまでも住み続けたいと思ってもらうために地域の活力の維持・向上を図ることを基本的方向としています。

数値目標は『船橋市を「住みよい」と感じる市民の割合』としており、令和3年度の基準値と比べると「住みよい」と感じる人の割合は全地区で増えています。特に南部、西部で85%を超えており、住みよい理由としては「鉄道など交通機関が多く、通勤・通学に便利だから」が最も多く挙げられています。ただし北部地区が77.9%とおしくも80%を超えていないため評価は「×」となりました。基本目標4の各施策の状況ですが、施策3「歩道や自転車走行空間の整備と交通安全意識の啓発」のKPI『交通事故発生件数』は年々減少しており、評価は「○」となりました。昨年度、森委員より、外国の方への交通安全に関する啓発活動についてご意見をいただいております。今年度も交通安全教室の開催や市ホームページ、多言語でのSNSでの情報発信など様々な媒体を使い啓発活動を行っています。

施策5「地域防災力の向上」のKPI『自主防災組織結成率』の評価は「×」となりました。全世帯数に占める自主防災組織を結成している町会・自治会の世帯数の割合で結成率を算出していますが、世帯数が増加する一方で、町会・自治会に属さない世帯が増加傾向にあることから、結成率が逡減しています。なお、昨年度早川委員よりご紹介いただきました避難所運営委員会については、令和6・7年度で新たに7委員会設立され、令和7年7月2日時点で16委員会となっています。

施策6「防災体制の充実」のKPIとして、『ふなばし情報メール(ふなばし災害情報)の登録者数』は年々増加しており、評価は「○」となっています。「LINE」を使用した利用登録者が増加しており、アプリからの登録にかかる手軽さも起因し、自身が住む地域の最新災害情報を取得するツールとして、登録者数が伸びていると考えます。昨年度、小林委員から登録者の年代についてご質問いただきましたが、今年のデータを見ると昨年同様30代・40代の割合が高くなっています。

施策8「市民活動への支援と協働の推進」のKPI『市と市民活動団体との協働事業数』については、協働事業の捉え方を変更したことに伴い、前年度との比較が困難なことから、評価対象外としています。

抜粋しての説明で申し訳ありませんが、説明は以上です。

○ 鈴木委員

全体を通して説明させていただきました。では委員の皆様からご意見、ご質問等ございましたらよろしくお願いをいたします。

○ 櫻井委員

いくつか質問させてください。まずこちらの総括表が成績表になるのかと思うのですが、昨年と比べて良くなった改善した点、逆に悪くなった点を、昨年との比較で教えてください。

○ 政策企画課課長補佐

基本目標1「仕事の創生」に関しては昨年も75%が「○」でございました。

基本目標2「魅力の創生」、こちらも昨年度と同様に66.7%が「○」の割合になっております。

基本目標3「ひとの創生」に関しては昨年度25%でしたので、こちらは良くなったと言えます。

最後に基本目標4「まちの創生」は昨年度85.7%でしたので、すこし悪化してしまった部分があるかと思います。

合計ですが昨年度は66.7%が「○」の割合でしたので、昨年度より良くなっております。

○ 櫻井委員

改善したことは素晴らしいと思うのですが、割合が減ってしまった項目とその要因を教えてください。

○ 計画推進係長

基本目標4の数値目標のところでは、「船橋に住みよいと感じる市民の割合」に関しましては、令和5年度は全ての地区で80%を超えておりましたので評価が「○」だったのですが、今回は「×」に変わっています。

○ 櫻井委員

今のお答えで、A3の大きい方の資料の最後の3枚目の一番上のところ、住み良いと感じる割合が確かにここ見ると北部だけ77.9%ですが、四捨五入すれば80%となります。1つはこのパーセントの表示の仕方の小数点以下まで表示する必要があるのかと感じます。調査の誤差とかがあり、四捨五入すれば80%なので「○」にしてもいいのではないかと私は思いました。その評価が変わればきっと先ほどの昨年に比べて評価が悪化したところも、変わらずという評価になるのではと思います、是非もう一度ご検討いただきたいです。

それから、もう1つ、横長の資料の1枚目の一番下の漁獲量ですが、地球温暖化で瀬戸内海では牡蠣がもう全滅状態になるなど、漁業環境をめぐる気候の影響はかなり大きいようです。

評価が「－」になって評価しないという理由は、新型コロナウイルスなど外的要因があつてなかなか数値が捉えにくいものになっていると思うのですが、青潮の影響など気候変動によって、いくら漁業者が頑張ろうとしても、取るべき魚が減ってしまっていてそれに対して「×」はちょっと気の毒なような気がしています。「○」と評価しにくいのであれば、「－」にしても私はよろしいのではないかなと思いました。

最後もう一点、横長の表の2枚目の上から3つ目の「滞在人口」ですが、ここも「×」がついているのですが、この右側に書いてある要因分析の文章がちょっと私には分かりにくくて、もう少し詳しく説明していただけますか。

○ 政策企画課課長補佐

こちらは数値自体が昨年度と同様に、令和4年と令和2年の比較になっております。この令和2年の基準値がまさにコロナ渦で基本的に外出しない、在宅が進んだ時期であります。それに対しまして、令和4年の数値は新型コロナウイルス感染症の規制が緩和傾向で、お出かけになる方が増えたものの、市外に外出されている方もおり、市内滞在の方が増えなかったという分析でございます。

○ 櫻井委員

最初の基準値があって、令和4年以降3年間数字が変わっていないのですが、これはデータがないということでしょうか。

○ 政策企画課課長補佐

こちらのデータはRESASという国のデータがございまして、令和4年度が最後の数値となっております。

○ 櫻井委員

1枚目に新型コロナウイルス感染症の影響で「－」となっている指標もあることから、ここも新型コロナウイルス感染症の影響があるのであれば「－」にしてもいいのかもしれない。

市民の住みやすい割合の80%のほうはいかがでしょうか。

○ 政策企画課長

市民の住みやすい割合に関しましては、80%をラインとして設けておりますので、優し

いご指摘をいただいておりますが、評価は厳密にさせていただきたいと思っております。漁獲量に関しましては、自然を相手にしている産業ではございますので、近年の影響を受けて漁獲量が上下する前提で設定している指標でもありますので、こちらも、このままの評価とさせていただきたいと思っております。ただ指標としての適正さと言いますか、そういうものに関しては引き続き内部で検討させていただきたいと思っております。

○ 櫻井委員

はい、分かりました。80%の話ですが、実績のところは全部小数点以下1桁で表現していますが、目標値とその右側の要因分析の文章になると小数点がなくなってしまう。厳密に評価するのであれば、例えば目標値も80%ではなく、80.0%と表記したほうが誤解がないのではないかとないか思います。

○ 早川委員

基本目標4のところ、私も基本的には櫻井委員のおっしゃるとおりだろうと思います。これは地域から見ておりまして、このような実績値が出る要因の1点目は公共交通機関の減少です。これは非常に大きな問題となっており、住みにくいね、行きにくいね、病院に間に合わないね、こういう声が地域の中では出てきています。それからもう1点は商店街が今、後継者不足で閉鎖をしているところが多くなってきております。まちの電気屋さんもなくなりました、まちの自転車屋さんもなくなりました。加えて食堂的なところ、これは外食が減ったということもあるのかもしれませんが、なくなってきております。

この背景にあるのは、この第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の中にも掲載されておりますけれども、高齢化率の地域差がだんだん顕著になってきております。北部・中部地区も令和15年度には40%・37%になるこういった値が出ておりますが、私どもの周りに少数のところですが、80歳以上の方が3/4近くになっている町会自治会があります。

このような地域で調査をするとすれば、必ずしも住み良いとは言いきれないという意見は当然出てくると思います。もしこれを数値化して目標値とするならば、基準値と比較をして分析した方が良いと私は思いました。

○ 政策企画課長

評価の方はこのままにさせていただいた上で、要因分析のところで、基準値と比べれば右肩上がりで上がってきているという表現ができるようにさせていただきたいと考えております。

早川委員ご指摘の通り、この住み良い割合というのは、数値を取り始めてから前年度と比較しますと上がり下がりしながらも、トレンドとしてはずっと右肩上がりできております。この先の状況もしっかりと注視しながら、数値の方も追いかけていきたいと考えております。

○ 小林委員

先ほどの滞在人口のところで、ここの要因分析に書いてあるとおり、新型コロナウイルス感染症の収束を受けて、平日休日に市外へ外出する人が増えたとありますが、これは船橋市民が市外に外出したという意味でよろしいですか。

○ 計画推進係長

船橋市はベッドタウンということで、平日の昼間東京に勤めに行く人が多いと考えられます。コロナ禍ではテレワークで自宅にいた方が相当数いたと推測されますが、新型コロナウイルス感染症の収束を受けて、少しずつテレワークがなくなり、また東京の方に勤めに行くまたは遊びに行くという趣旨で書かせていただいております。

○ 小林委員

船橋市内から出ることは悪いことではないという解釈でよろしいですか。

○ 計画推進係長

船橋市内に滞在していただいた方が、地域経済の活性化等には繋がると思います。

○ 小林委員

なるほど。ただ、市外に出ることは決して悪いことではないので、滞在人口を増やすというのは2つあって、市内から出る人を減らすか、市外から来る人を増やすかだと思います。

この要因分析を読んでいると市外に出る人が多くなって数値が駄目になってしまったと、だからなるべく船橋市内に留めておきたいというニュアンスに私はとらえました。市外に出ることが決して悪いことではなく、それを上回る市外からの流入があればいいと思います。そこを併記しないと船橋から出てはいけない、そんなふうに捉える人もいるかもしれません。魅力をアップすれば、休日市内に留まる人もおり、あわせて市外からも、先ほどのバスケットボール含めて魅力があるから船橋に来る人がいる、全体としては滞在人口が増えるというようなロジックで書かれた方が良くと思います。

○ 政策企画課長

こちらの表現につきまして、ご指摘のとおりかと思います。滞在していただける魅力ある拠点作りみたいなことも1つの施策かと思うので、まず船橋市民がどういう行動をとっているのかという部分もあわせて、流入する方についても記載させていただきたいと思います。

○ 森委員

基本目標2「行ってみたい魅力があふれるまち・船橋」の転入の項目でお聞きしたいのですが、要因分析欄で令和2年の基準値と比べて約1,000人増えていますと書かれています。そのうち国外からの方の転入者が362名増加とありますが、転入の方は学生さんなのか、それとも働きに来ている方なのか分かる情報があれば教えてください。

○ 政策企画課長

今、資料が手元にないものですから申し訳ございませんが、会議が終わった後にご報告はさせていただきたいと思います。まずは確認をさせていただきます。

○ 阿部委員

基本目標3の合計特殊出生率についてですが、船橋市の最終実績値は1.06になっていますが、この数字は全国平均と比べかなり低いという印象を受けます。令和6年度の目標値は1.36としていますが、なかなかそこまではいかないだろうと感じております。実際になぜ船橋市は低いのかという分析がもう少しあった方がいいかなと感じました。例えば千葉県と比較してどうなのか、東京都と比較してどうなのか、全国平均より低いということは働いていて結婚していない人が多いとか、その辺の要因分析をもう少し明確にして、今までの施策を継続するのか、新たな施策が必要なのか検討しないとこの指標は改善していかないだろうという印象を受けています。

○ 政策企画課長

合計特殊出生率の数値の比較だけになってしまうのですが、船橋市が1.06に対して、県全体ですと1.09です。近県で申しますと埼玉県も同じ1.09、神奈川県1.08、東京都は、0.96でございます。いずれも令和6年度の数値になります。東京に比べますと、数値的にはいい状態にはなりますが、他の県、埼玉千葉神奈川と比べますと幾分か低い状態にはなっております。要因については、正直これだっていうのはなかなか難しいです。

○ 鈴木委員

厚労省も県でも実施しているのですが、市民意識調査の中で、どうすればより子供を産み育てたいかという質問に、やはり経済的な支援が必要だという意見が一番多いです。児童手当の対象者を拡大したほか、国の補正予算で上乗せて支給するなど手厚く取り組んでいます。その他に保育などの受け皿の確保や結婚に関する支援等にも取り組んではいるのですが、なかなか数値が改善には至らないというのが実態でございます。しかし新たな取り組みを含め改善しながら進めていかなければならないと全庁的に取り組んでいるところでございます。

○ 篠田委員

今の出生率の話ですけれども、経済的な負担はもちろんありますが、やはり若い人達が結婚して子供がいる生活が良いというところを1つ1つ見せることも大切だと思います。それと1.36という目標値ですが、もちろん結婚するのも自由、独身でいるのも自由、子供を持たないのも自由ですが、人は0.36人というわけにはいきませんので、2人とか3人にした方がわかりやすいと感じました。

それともう1つ、企業活動の活性化支援のところですが、平成28年の15,603事業所から、令和3年の15,194事業所と減少しています。しかし従業者数は増えていると思います。事業所が少なくなって、従業者数が増えているってことは先ほど早川委員がおっしゃいましたが、商店会を含めた中小の事業所が減っていて、この資料3ページ目のところの自主防災組織や自主パトロール組織といったところにやはり影響してくると思います。商店会だけじゃなくて、地域活動、町会自治会の活動を支援するようなことをもう少し手厚く取り組む必要があると思います。

○ 早川委員

基本目標4のところ、今、篠田委員からもお話ありました自主防災組織結成率あるいは自主防犯パトロール隊結成率、これは地域の深刻な問題になってきております。自主防災組織結成率ですが、必ずしも自主防災組織が組織として組成されているわけではなくて、町会自治会全体として自主防災対策を講じているというところはいくつもあります。ですから、統計的には減少となりますが、必ずしも「×」という印象ではありません。それからもう1つ防犯体制については、警戒感を強めておりまして、パトロール隊こそないですが、防犯カメラの設置促進を市の補助を受けながら進めているところが増えてきているはずで、そういったところが充実してくれば、見回り等は必要ではありますが、大きな効果をもたらしてくれるのかなということで、防犯パトロール隊の結成を見合わせているところもあります。これが地域の実情だろうと思います。

また、私は先般11月27、28日に、鋸南町の台風10号対策に、社会福祉協議会と視察して参りました。復旧の一番大きな要因は、ボランティアセンターの早期立ち上げでございました。地域ではなかなかボランティアを受け入れるセンターのような体勢は取れません。これは行政として是非念頭においていただいて早期立ち上げが可能になるように、全国各地から応援に来ていただける方を受け入れていただけるような体制づくりが必要かなと痛感いたしました。

それから茂原市にある観光バス会社が保有しているトイレトレーラーを見て参りました。能登半島の震災の時に2台派遣して大変効果があったということです。大変巨大な6mの箱型のもので、それに頭がついてくると8m以上の大きさになるので複数台を行政

が保管するとなれば、保管場所の問題とか平時にどう活用するかという問題があるのかもしれませんが、このトイレトレーラーが5,000回使用可能なのだそうです。一般のトイレカーが1,500回使用可能なのに対して大変効果大きい。これも今後、体制の中に組み込まれていくといいのかなと思いました。先日の東北もそうですが、常に私たちは危機意識を持ちながら防災、あるいは防犯パトロールも含めて体制の強化に取り組んでいるところです。ただ残念ながら電話の詐欺に関しては、地域でいくら呼びかけても、皆さん気をつけよう、気をつけようと言っている、どうしても防ぐことができない課題の1つで毎日頭を痛めておるところです。いつまでも住み続けたいまち、これはもう本当に希望であり是非そうありたいと思う一方でそういった問題を抱えているので、行政としても色々ご支援いただければというふうに思います。

○ 鈴木委員

ありがとうございました。その他いかがでしょうか。様々ご意見頂きましたので、こちらで持ち帰って改めるべきところは改め、所管課が関わるお話もありましたので、いただいたお話を各課にも伝えながら取り組みを進めて参りたいと思っております。

全体を通してのご意見ご質問よろしいですか。

最後に事務局から連絡がございます。

○ 政策企画課課長補佐

本日はご意見ありがとうございました。最後に一点お願いがございます。本懇話会ですが、議事録をホームページにて公開することとされております。後日事務局より議事録をお送りいたしますので、その際は内容の確認にご協力お願いいたします。また最後に本日お車でお越しの方がいらっしゃいましたら事務局までお申し付けください。事務連絡は以上です。

○ 鈴木委員

それでは以上もちまして、第1回船橋市まち・ひと・しごと創生懇話会を閉会とさせていただきます。本日はお忙しい中ありがとうございました。

閉会（11時30分）

以上